

Accuphase

PRECISION SA-CD TRANSPORT



プレジジョン SA-CD トランスポート

DP-1000

取扱説明書



ご使用の前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読み
のうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きか
えにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保管してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

5年間の品質保証と保証書

本機の品質保証は5年間です。付属の「お客様カード（保証書発行はがき）」に必要事項を記入の上、必ず（なるべく10日以内）でご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

- *「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは25ページをご参照ください。
- *「品質保証書」はサービスサポート時に必要となります。保証書がない場合は、全て有償修理となりますので、保証登録を行っていただき、届きました保証書を大切に保管してください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、保証は日本国内のみ適用されます。

The Accuphase warranty is valid only in Japan.

HS-LINKはアキュフェーズ株式会社の登録商標です。



マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。



警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。



注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

付属品をご確認ください

- | | |
|--|--------------------------------------|
| ●取扱説明書(本書)..... 1冊 | ●リモート・コンマ
ンダー RC-140 1個 |
| ●安全上のご注意..... 1冊 | ●単3乾電池 2個 |
| ●品質保証書について/
お客様カード(保証書発行はがき) 1枚 | ●HS-LINKケーブル(1.5m)(AHDL-15) 1本 |
| ●目隠しシール 1枚 | ●AC電源コード(2m)(APL-1) 1本 |
| | ●クリーニングクロス 1枚 |

ご注意

- ①本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改題することはおやめください。
- ②本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- ③本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。

目次

付属品をご確認ください……………表紙裏頁

1. 安全上必ずお守りください ……………	2,3
△警告……………	2
お使いになる前に……………	2
△注意／快適にお使いいただくために／お手入れ……………	3
2. 演奏可能なディスクとデジタル録音について ……………	4
本機で演奏できるディスク……………	4
本機で演奏できないディスク……………	4
本機で演奏したディスクのデジタル録音について……………	4
3. 各部の名前 ……………	5,6
3.1 フロントパネル……………	5
3.2 リアパネル……………	5
3.3 リモート・コマンダー RC-140……………	6
4. リモート・コマンダーのご使用方法 ……………	7
5. 各部の動作説明 ……………	8～11
5.1 フロントパネル……………	8,9
1 電源スイッチ……………	8
2 ▲OPEN/CLOSEボタン……………	8
3 ディスクトレイ……………	8
4 SA-CD/CDボタン……………	8
5 ▶PLAYボタン……………	8
6 PAUSEボタン……………	9
7 ◀◀BACK/NEXT▶▶ ボタン……………	9
8 ■STOPボタン……………	9
9 リモート・センサー……………	9
10 ディスプレイ……………	9
5.2 リモート・コマンダー RC-140……………	10
11 選曲ボタン……………	10
12 REPEATボタン……………	10
13 TIMEボタン……………	10
14 PROGRAM/CLEARボタン……………	10
15 INPUTボタン……………	10
16 LEVELボタン……………	10
5.3 リアパネル……………	11
17 デジタル出力端子……………	11
18 AC電源コネクター……………	11

6. 接続図 ……………	12
7. 本機のご使用方法 ……………	13～19
7.1 基本的な演奏……………	13
7.2 基本的な機能……………	13
7.3 プログラム演奏……………	14
プログラム演奏を行うには……………	14
プログラムの内容を確認するには……………	15
表示を切り替えるには……………	15
通常の演奏に戻すには……………	15
7.4 データ・ディスクの演奏……………	16
演奏できるファイルの仕様……………	16
演奏可能な最大ファイル数とフォルダ数……………	16
ファイルの演奏順番について……………	16
フォルダとファイルの構成……………	17
演奏方法について……………	17
表示について……………	17
DSDディスクについて……………	17
7.5 HS-LINKバージョンの変更方法……………	18
7.6 パワー・オン・プレイの設定方法……………	18
7.7 オート・ポーズの設定方法……………	19
7.8 7.5項～7.7項の設定を工場出荷状態に戻す方法……………	19
8. ヴォイスング・イコライザーとの接続 ……………	20
9. HS-LINKについて ……………	21
『Ver.1対応機器』と『Ver.2対応機器』……………	21
注意：Ver.2対応機器からVer.1対応機器への接続方法……………	21
HS-LINKケーブル(付属)……………	21
10. 保証特性 ……………	22
11. ブロック・ダイアグラム ……………	23
12. 故障かな?と思われるときは ……………	24
13. アフターサービスについて ……………	25

安全上必ず
お守りください演奏可能なディスクと
デジタル録音について

各部の名前

リモートコマンダー
のご使用方法各部の
動作説明接
続
図本機のご
使用方法ヴォイスング・イコ
ライザーとの接続HS-LINK
について

保証特性

ブロック・
ダイアグラム故障かな?と
思われるときはアフターサービス
について

1. 安全上必ずお守りください

ご使用の前にこの「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。



警告

■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

- 付属または当社指定の電源コード以外は絶対に使用しない。
- ぬれた手で電源プラグを絶対に触らない。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしたりしない。
- 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

■密閉されたラック等には絶対に設置しない。

- 通風が悪いと機器の温度が上がり、火災や故障の原因となります。

■放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。

■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。

■火災又は感電を防止するために、雨がかかる場所又は湿気のある場所では絶対使用しない。

■ウッド・キャビネットやボトム・プレート(底板)は絶対に外さない。

- 内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

■脚の交換は危険ですから行わない。

- 取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因となります。

■次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

- 製品に水や薬品などの液体がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損したりした場合。

* 上記の各項目に対して、電源スイッチをOFFにしただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

* 万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

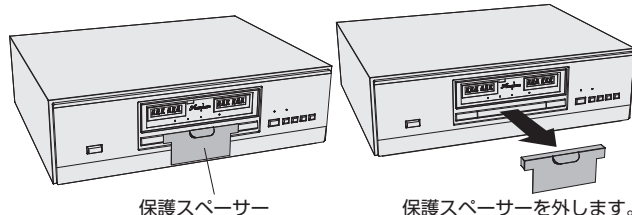
■入・出力端子や、AC電源コネクター、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり、端子部がショートをおこしたりして、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。

(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)

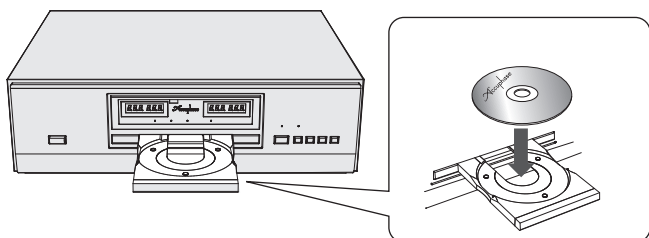
お使いになる前に

輸送時の振動により、ディスク・トレイとパネルが傷つくのを防止するため、保護スペーサーが差し込んであります。ご使用前にこの保護スペーサーを外してください。

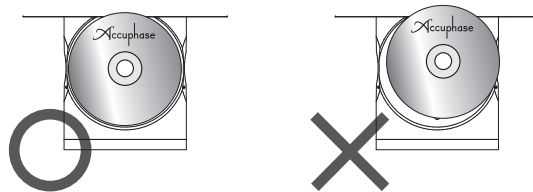


※アフターサービス等の輸送時にも使用しますので、外した保護スペーサーは保管しておいてください。

ディスクの円形のくぼみからはみ出さないように、ディスクを静かに載せてトレイを閉じます。



注意



くぼみからはみ出した状態でディスクを載せると、挿入口でディスクが挟み込まれ、ディスクに傷を付ける恐れがあります。



注意

◆ディスク・トレイとフロントパネルの間に指が挟まれないように十分注意する。

ディスク・トレイ中央の穴に指を入れた状態でディスク・トレイを閉めると、フロントパネルとディスク・トレイの間に指が挟まり、けがをする恐れがあります。

- ディスク・トレイに異物を挟まない。
故障の原因となります。
- 次のような場所には設置しない。
故障や事故の原因となります。
 - 通風が悪い場所
 - 湿度の高い場所
 - 埃の多い場所
 - 直射日光の当たる場所
 - 暖房器具の近くなど温度の高い場所
 - 極端に温度の低い場所
 - 振動のある場所
 - 傾斜のある場所
 - 不安定な場所
- パワーアンプなど他の機器に直接重ねて設置しない。
故障の原因となります。
- チューナーやテレビ、DVDレコーダー等から離して設置する。
近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります。(特に室内アンテナの場合はご注意ください。)
アンテナ線と本機の電源コードや入・出力ケーブルを離して設置してください。
- 市販のレンズ・クリーナーを使用しない。
故障の原因となります。本機は埃が入り難い構造になっておりますので、レンズ・クリーナーの使用は推奨しておりません。

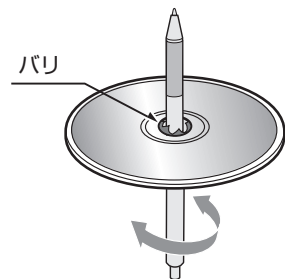
- レーザー光源をのぞき込まない。
視力障害の原因となります。
- 入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切ってから行なう。
特にラインケーブルやHS-LINKケーブルを抜き差しするときは、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する恐れがあります。
- 電源スイッチは、各機器が正しく接続されてから入れる。
故障の原因となります。
- 電源スイッチを切ってから、10秒以内に再びONしない。
ノイズ発生などの原因となることがあります。
- 長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。
より安全にお使いいただけます。
- 演奏の前にボリュームを絞っておく。
不用意にボリュームを上げると、思わぬ大音量でアンプやスピーカーを破損することがあります。
- HS-LINKの接続には、当社製のHS-LINKケーブルを使う。
他のケーブルを使用すると、故障の原因となります。
- HS-LINKはPCのLAN等に接続しない。
LAN等に接続すると、それぞれの機器やシステムが破損するおそれがあります。
- 室温35℃以下で使用する。
故障の原因となります。

快適にお使いいただくために

- CCCDの演奏は、動作・音質を保証できません。
 - コピー・コントロールCD(CCCD)など『著作権保護技術付音楽ディスク』は、現在のCD規格に準拠していない特殊ディスクのため、当社のCD演奏機器による演奏の動作・音質は保証できません。
 - CCCD等の詳細につきましては、ディスクの発売元にお問い合わせください。
- 光学系ピックアップの結露について
冬期、暖房で暖められた部屋の窓ガラスに水滴が付くように、CDプレーヤーでも以下の環境でピックアップ・レンズが結露し、本来の読み取りが行えず、正常に動作しないことがあります。
 - ストープなどの暖房器具を点けた直後
 - 本機を湿度が非常に高い部屋に置いた場合
 - 冷房や屋外で冷えた本機を、急に暖かい部屋に持ち込んだ場合
 このような場合には、電源を入れてディスクを取り出し、1時間ほど経過すると結露は自然になくなり、正常に動作します。
- CD-Rなど表面に印刷可能な加工処理が施されているディスクについて
本体内部に貼り付き、取り出しができなくなる事があります。
- ディスクへのラベル貼付について
故障の原因となりますので、ディスクにはラベルを貼らないでください。

■ バリの残っているディスクの演奏について

ディスクのセンターホールにはバリ(右図参照)が残っていることがあります。このようなディスクは演奏しなかったり、音飛びが起きたりする場合がありますので、バリを細い棒状のもの(プラスチック製のボールペンなど)で取り除いてから演奏してください。



■ ディスクの取り扱いについて

- 直射日光が当たる場所や、高温多湿の場所には置かないでください。
- 演奏終了後は、ホコリ、キズを避けるため、必ずケースに入れて保管してください。
- レーベル面の反対側が信号読み取り面ですので、手で触れないようにしてください。指紋やホコリなどの汚れは音質劣化の原因となります。
- ディスクのお手入れは、柔らかい布で内側中心から外側へ軽く拭くようにしてください。
- ベンジン、レコードクリーナー、静電防止剤などは、ディスクを傷めますので使わないでください。

お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のホコリやゴミ、指紋等汚れの拭き取りには、付属のクリーニングクロスをご使用ください。特にウッドキャビネットの場合には、表面を傷つけることなく、きれいに拭き取ることができます。
- 付属のクロスは、洗濯して繰り返し使用できます。洗剤で洗濯後、よく水洗いをし、乾いた状態でご使用ください。
- ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。
- ディスク・トレイ内のお手入れにアルコール類を使用しないでください。アルコールで拭くとディスク・クッション(3個)が剥れディスクを傷つけるおそれがあります。

2. 演奏可能なディスクとデジタル録音について

演奏可能なディスクと
デジタル録音について

各部の名前

本機で演奏できるディスク

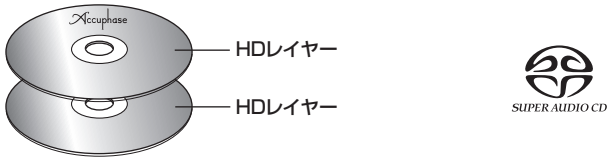
■本機で再生できるのは、SA-CDおよびCDの標準規格に合致したディスクだけになります。再生については、音楽ディスク・パッケージの表示をよくお読みください。

SA-CD : シングルレイヤー・ディスク



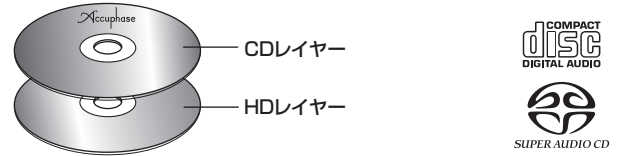
- HD (ハイデンシティ) レイヤー単層のSA-CDです。
- HDレイヤーは、SA-CD用の高密度信号層です。

SA-CD : デュアルレイヤー・ディスク



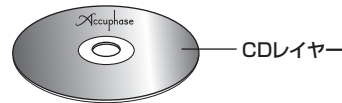
- HDレイヤーが2層になっているディスクで、長時間再生が可能なSA-CDです。
- 片面2層構造のため、再生時裏返す必要はありません。

SA-CD+CD : ハイブリッド・ディスク



- HDレイヤーとCDレイヤーが2層になっているディスクです。
- ディスク挿入後、HDレイヤーが優先的に選択されます。CDレイヤーを再生する時は、SA-CD/CDボタンを押して、希望の層を選択します。
- 片面2層構造のため、再生時裏返す必要はありません。
- CDレイヤーは、通常のCDプレーヤーでも再生することができます。

CD



- 従来フォーマットのCDです。



データ・ディスク (DSDディスクを含む) 16ページ参照



本機で演奏できないディスク

- CD-ROM
- DVD
- SA-CD-Multi
- DVD-Audio
- dts-CD
- MP-3
- Blu-ray
- 8cm CD

※ 誤って使用するとノイズを発生する場合があります。
 ※ CD EXTRA, CD-R/-RW, DVD-R/-RW/+R/+RWなどは録音・記録状態によっては正常な動作をしないときがあります。

注意

- マルチチャンネルSA-CD (SA-CD-Multi) について
- 「2チャンネル+マルチチャンネル」ディスクの場合、2チャンネル・エリアは演奏できますが、マルチチャンネル・エリアは演奏できません。
- 2チャンネル・エリアがない、「マルチチャンネルのみのSA-CD」(規格外ディスク)が存在します。このディスクは演奏できません。

本機で演奏したディスクのデジタル録音について

SA-CDの録音

SA-CDは著作権保護のためデジタル録音ができません。SA-CDを録音したい場合には、DC-1000等でアナログ信号に変換してから録音してください。

CDの録音

- 本機のCOAXIAL出力をレコーダーに直接接続して録音します。
- 本機とDC-1000をHS-LINK(またはCOAXIAL)で接続し、DC-1000のCOAXIAL出力端子またはOPTICAL出力端子をレコーダーに接続して録音します。

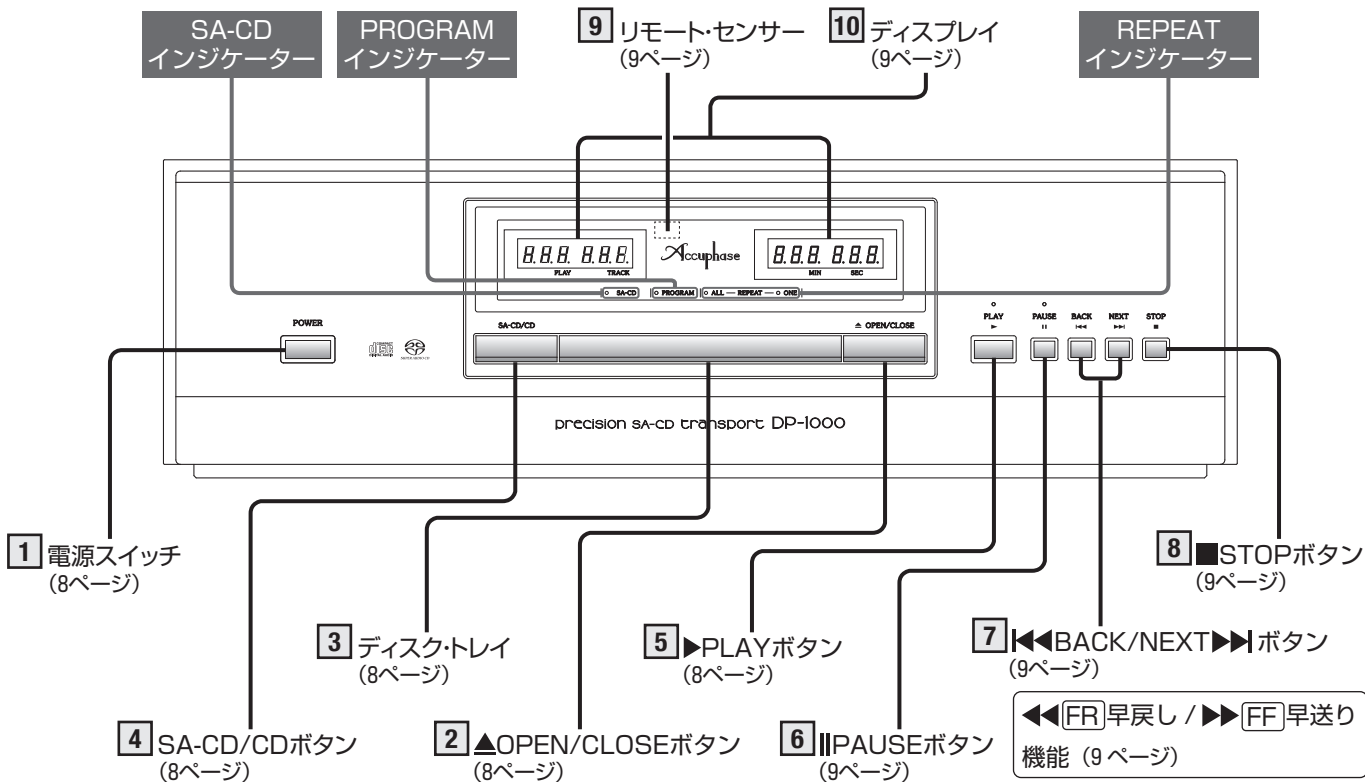
3. 各部の名前

詳しい説明は、各項目()内のページを参照してください。

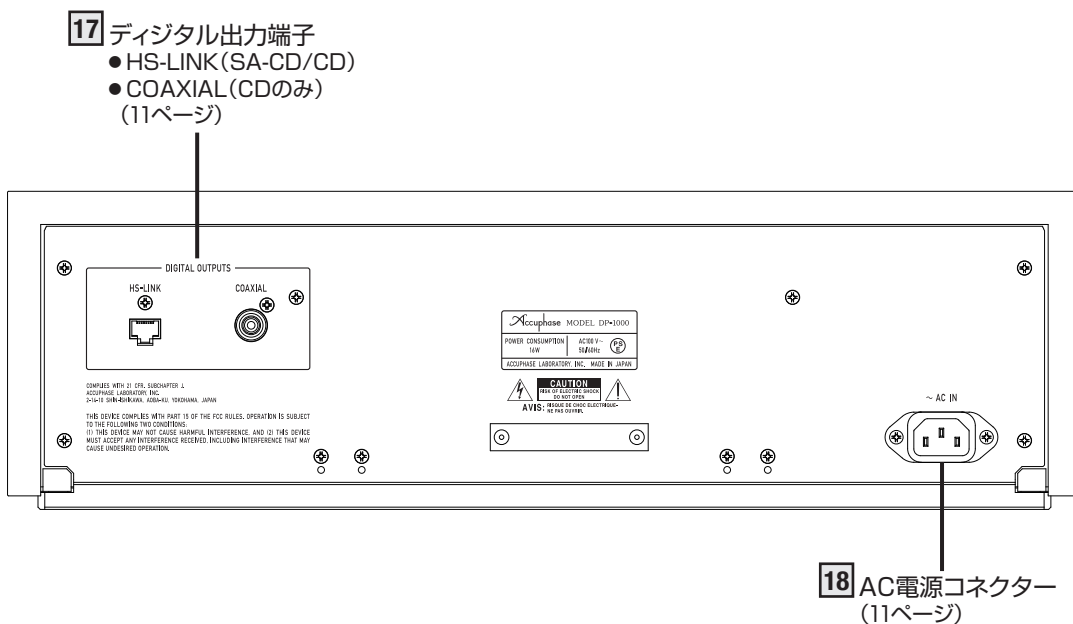
演奏可能なディスクと
デジタル録音について

各部の名前

3.1 フロントパネル



3.2 リアパネル



3.3 リモート・コマンダー RC-140

(ご使用方法は7ページ参照)

DC-1000の機能

15 INPUT
DC-1000の入力を切り替えます。
詳しくはDC-1000の取扱説明書をご参照ください。

16 LEVEL
DC-1000が出力するアナログ信号の出力レベルを調整します。
詳しくはDC-1000の取扱説明書をご参照ください。

11 選曲(10ページ)

12 REPEAT(10ページ)

7 ◀◀ **BACK**(9ページ)

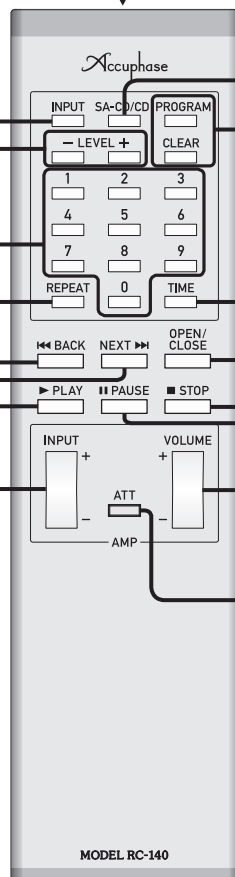
7 ▶▶ **NEXT**(9ページ)

5 ▶ **PLAY**(8ページ)

当社プリアンプ、プリメイン・アンプの機能 (DC-330、DC-300など一部の機種を除く)

INPUT
プリアンプ、プリメイン・アンプの入力を切り替えます。
+ 点灯したインジケーターが右方向に回転します。
- 点灯したインジケーターが左方向に回転します。

発光部



4 SA-CD/CD(8ページ)

14 PROGRAM/CLEAR(10ページ)

13 TIME(10ページ)

2 ▲ OPEN/CLOSE(8ページ)

8 ■ STOP(9ページ)

6 || PAUSE(9ページ)

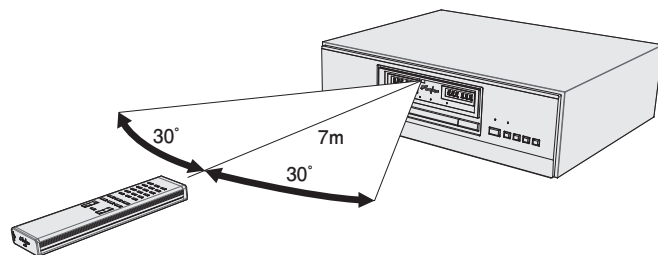
当社プリアンプ、プリメイン・アンプの機能 (DC-330、DC-300など一部の機種を除く)

VOLUME
プリアンプ、プリメイン・アンプの音量をコントロールします。

ATT
プリアンプ、プリメイン・アンプのATTENUATORボタンです。
出力レベルを $\frac{1}{10}$ (-20dB) に下げます。

4. リモート・コマンダーのご使用方法

リモート・コマンダーの発光部を本機やDC-1000のフロントパネルに向けて、右図の範囲内でご使用ください。



各部の名前

リモート・コマンダー
のご使用方法

警告

- 電池ケースの電極部に金属類を接触させない。
- 乾電池を充電しない。
- 乾電池を逆向きに入れない。
- 古い乾電池と新しい乾電池を混用しない。
- メーカー、種類、型番の異なる乾電池を混用しない。
- 使い切った乾電池を入れたままにしない。

電池の破裂や液漏れにより、火災やけがの原因となります。

注意

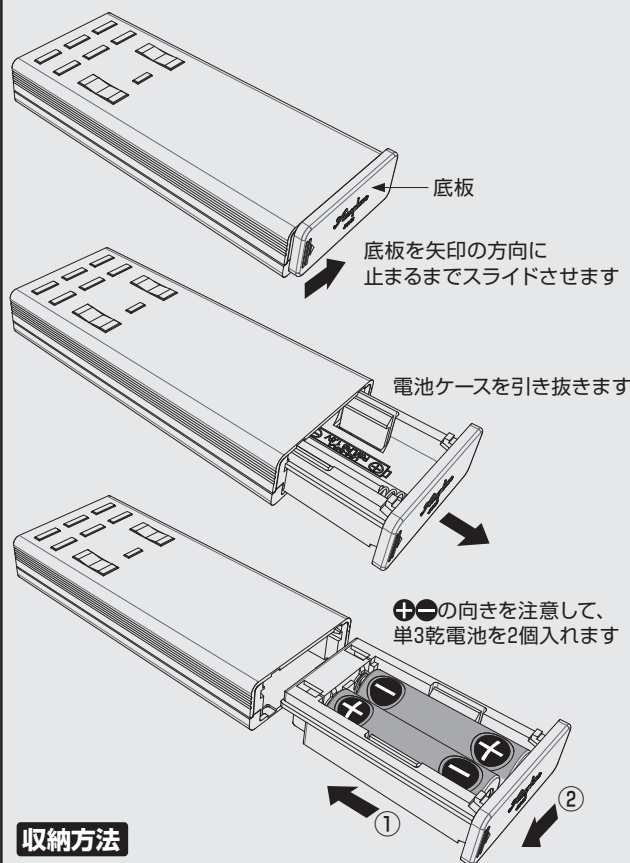
- 乾電池を廃棄する場合は、法律、条例などで定められた方法にしてください。
- 長期間にリモート・コマンダーを使わないときは、乾電池を抜いてください。
- リモート・コマンダーを落下させないでください。
- リモート・コマンダーに液体をこぼさないでください。
- 乾電池が液漏れしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。
- 乾電池から漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

メモ

- 操作距離が短くなってきたら乾電池の交換時期です。
- テレビやインバーター照明等の近くに設置した場合、リモコンの動作が不安定になることがあります。故障ではありません。置く向きを変えたり、お互いに離したりしてお使いください。

乾電池の入れ方

新品の同じ2個の乾電池を、向きに注意しながら入れてください。



収納方法

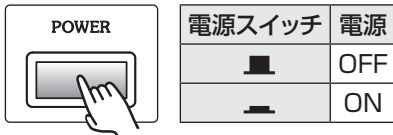
- ① 電池ケースを奥まで挿入します
- ② 底板を矢印方向にスライドさせて固定します

5. 各部の動作説明

- 詳しい使用方法は()内のページを参照してください。
- 本説明書では、「トラック」と「曲」を同義で扱っています。

5.1 フロントパネル

1 電源スイッチ



電源をON/OFFするためのスイッチです。

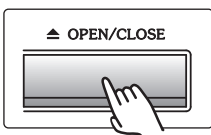
メモ

- 電源を入れると左側のディスプレイが点滅し、約10秒間内部のセットアップを行います。
- 電源が入ると同時に演奏を開始するパワー・オン・プレイについては、18ページをご参照ください。

注意

電源を切った後、10秒以内に再び電源を入れないでください。ノイズ発生などの原因となります。

2 ▲OPEN/CLOSEボタン



ディスク・トレイを開閉させるためのボタンです。

メモ

演奏中に押すと演奏を中止して、トレイを開きます。

3 ディスク・トレイ

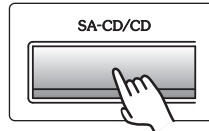
ディスクを搭載するためのトレイです。

▲OPEN/CLOSE ボタンで開閉します。

注意

トレイを出したままの状態では電源を切ると、次回電源を入れた瞬間にトレイが自動的に閉まります。ディスクを挟み込まないようにご注意ください。

4 SA-CD/CDボタン



演奏	インジケーター
SA-CD(優先)	○ SA-CD 点灯
CD	消灯

SA-CDとCDが記録されたハイブリッド・ディスクを挿入した場合に、SA-CDとCDを切り替えるためのボタンです。SA-CD選択時にはインジケーターが点灯します。

メモ

ハイブリッド・ディスク

- SA-CDを優先して演奏します。
- CDを演奏したいときは、ボタンを押してインジケーターを消灯させます。
- 演奏中や一時停止中に切り替えると、その曲の先頭から演奏します。
- ディスク挿入直後のTOC(ディスク情報)読み込み時には、切り替えができません。

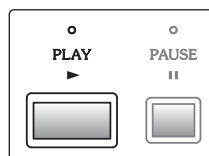
SA-CD専用ディスク

演奏中にこのボタンを押すと、演奏を中止してSTOP状態になります。

CD専用ディスク

このボタンは無効になります。

5 ▶PLAYボタン



動作	インジケーター	
	○ PLAY	○ PAUSE
停止中	消灯	消灯
演奏中	点灯	消灯
一時停止中	点灯	点灯

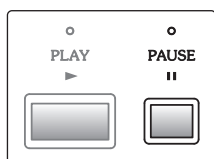
演奏を開始させるためのボタンです。

一時停止中に押すと演奏を再開します。

メモ

- 一時停止中はPAUSEと一緒に点灯します。
- ディスク・トレイを押しても演奏を開始します。

6 PAUSEボタン



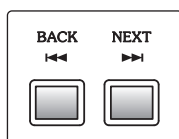
動作	インジケーター	
	PLAY	PAUSE
停止中	消灯	消灯
演奏中	点灯	消灯
一時停止中	点灯	点灯

演奏を一時停止させるためのボタンです。
一時停止中に押すと演奏を再開します。

メモ

- 停止中に [PAUSE] ボタンを押すと、1曲目の先頭で一時停止します。
- ディスクトレイが開いた状態で [PAUSE] ボタンを押すと、トレイを閉じて1曲目の先頭で一時停止します。

7 BACK/NEXTボタン



演奏トラックを変更したり、早戻し(◀◀FR) / 早送り(▶▶FF)をしたりするためのボタンです。

◀◀BACK ボタン

操作	動作
1回押す	トラックの先頭へ戻ります。
2回以上押す	順次、前のトラックの先頭へ戻ります。
押し続ける	演奏している曲内での 早戻し(◀◀FR)となります。演奏音が断続的に聴こえますので、希望の部分に近づいたらボタンを離します。

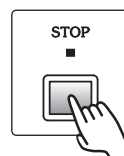
NEXT▶▶ ボタン

操作	動作
1回押す	次のトラックの先頭へ進みます。
2回以上押す	順次、次のトラックの先頭へ進みます。
押し続ける	演奏している曲内での 早送り(▶▶FF)となります。演奏音が断続的に聴こえますので、希望の部分に近づいたらボタンを離します。

メモ

- 停止中や一時停止中は、早戻し(◀◀FR) / 早送り(▶▶FF)はできません。
- トラックをまたいでの早戻し(◀◀FR) / 早送り(▶▶FF)はできません。
- 一時停止中に [BACK] / [NEXT] ボタンを押すと、指定した曲の先頭で一時停止状態になります。

8 STOPボタン



演奏を停止させるためのボタンです。

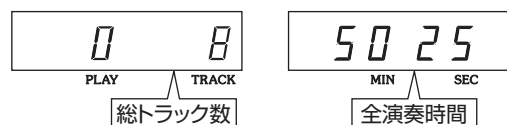
9 リモート・センサー

リモート・コマンドの受光部です。
リモート・コマンドのご使用方法については7ページをご参照ください。

10 ディスプレイ

ディスクの演奏状態を表示します。

停止中の表示



演奏中の表示

リモート・コマンドの [13] TIME ボタンを押すたびに、表示を1~4の順番で切り替えます。

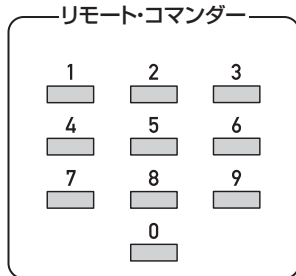
表示		表示例	
1	曲中経過時間	4 8 PLAY TRACK	5 18 MIN SEC 全8曲中4曲目の5分18秒を演奏中
2	曲中残り時間	4 8 PLAY TRACK	- 1 03 MIN SEC 4曲目の終わりまで残り1分3秒
3	トータル経過時間	8 PLAY TRACK	23 08 MIN SEC 最初から23分8秒を演奏中
4	トータル残り時間	8 PLAY TRACK	- 27 17 MIN SEC 全曲の終わりまで残り27分17秒

メモ

- データ・ディスクの場合には曲中経過時間のみ表示します。
- プログラム演奏中の表示切り替えについては、15ページをご参照ください。
- テキスト情報の表示はできません。

5.2 リモート・コマンダー RC-140

11 選曲ボタン



トラック番号を選択するためのボタンです。

トラック番号を入力すると、指定したトラック番号が10秒間点滅しますので、点滅中に▶PLAY ボタンを押します。

(操作例)

5曲目の演奏

5 → ▶PLAY

15曲目の演奏

1 → 5 → ▶PLAY

115曲目の演奏

1 → 1 → 5 → ▶PLAY

トラック番号を入力した後に、トラック番号を解除したい場合には、以下に示した何れかの方法で指定が解除されます。

- 10秒間放置する
- ■STOP ボタンを押す

メモ

- 演奏または停止中に選曲ボタンと||PAUSE ボタンを押すと、指定したトラックの先頭で一時停止状態になります。
- 一時停止中に選曲ボタンと▶PLAY ボタンを押すと、指定したトラックの先頭から演奏を開始します。
- ◀◀BACK / NEXT▶▶ ボタンを使って、任意のトラックを選択することも可能です。
- 選曲可能なトラック番号の最大値は以下の通りです。

SA-CD : 255トラック

CD : 99トラック

12 REPEATボタン

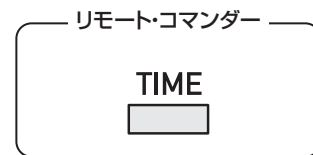


全曲と1曲のリピート演奏に切り替えるためのボタンです。

リモート・コマンダーのREPEAT ボタンを押すたびに、演奏を1~3の順番で切り替えます。

演奏		インジケーター	
		○ ALL	○ ONE
1	リピートOFF	消灯	消灯
2	全曲リピート	点灯	消灯
3	1曲リピート	消灯	点灯

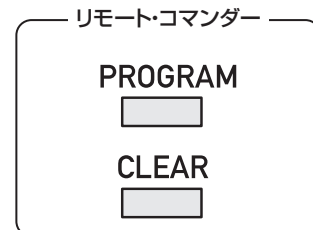
13 TIMEボタン



時間表示を変更するためのボタンです。

表示については10ディスプレイ(9ページ)をご参照ください。

14 PROGRAM/CLEARボタン



プログラム演奏を行うためのボタンです。

プログラム演奏については14ページをご参照ください。

DC-1000の機能

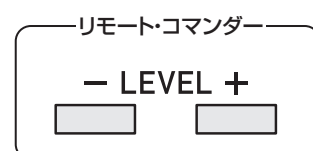
15 INPUTボタン



DC-1000のデジタル入力信号を選択するためのボタンです。

詳細はDC-1000の取扱説明書をご参照ください。

16 LEVELボタン

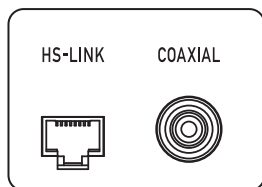


DC-1000が出力するアナログ信号の出力レベルを調整するためのボタンです。

詳細はDC-1000の取扱説明書をご参照ください。

5.3 リアパネル

17 デジタル出力端子



本機で演奏したディスクのデジタル信号を出力するための端子です。

HS-LINK (RJ-45)

SA-CD/CD/データ・ディスク(DSDディスクを含む)の信号を出力するデジタル出力端子です。

HS-LINKを装備しているデジタル・プロセッサ等と、必ず付属の当社製HS-LINKケーブルで接続します。

ハイブリッド・ディスク挿入時には、**SA-CD/CD** ボタンで選択したSA-CDまたはCDのデジタル信号を出力します。

演奏ディスク	信号出力	
SA-CD	○	
CD	○	
データ・ディスク	DSD	○
	PCM	○

メモ

出力フォーマットの初期設定はHS-LINK Ver.2です(21ページ参照)。

接続機器(21ページ)に応じて、出力フォーマットをHS-LINK Ver.1に切り替えることができます(18ページ参照)。

COAXIAL (同軸)

CD/データ・ディスクの信号を出力するデジタル出力端子です。

75Ω同軸ケーブルでデジタル・プロセッサ等と接続します。

演奏ディスク	信号出力	
SA-CD	—	
CD	○	
データ・ディスク	DSD	—
	PCM	○

18 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。



警告

電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

■電源コードに付いているアース線の接続

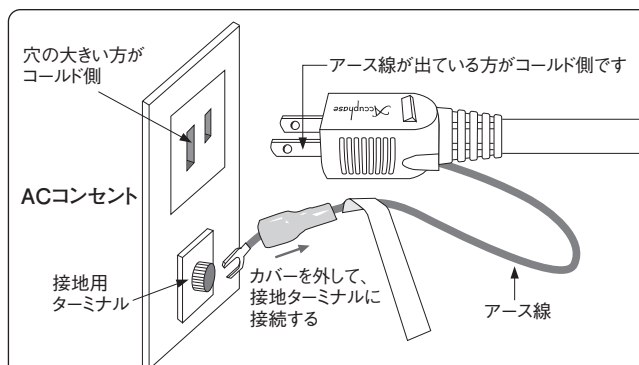
付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

■入・出力端子や、AC電源コネクター、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

経年劣化による樹脂部の破損や、端子部のショートにより、感電や火災あるいは故障の原因になることがあります。

(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)



警告

アース線の接地用ターミナルへの接続は、必ずプラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは必ずプラグをコンセントから抜いてから行ってください。

■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

◆注意

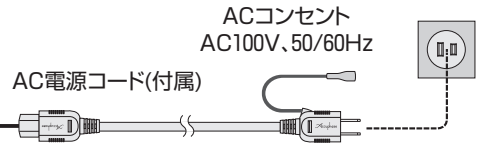
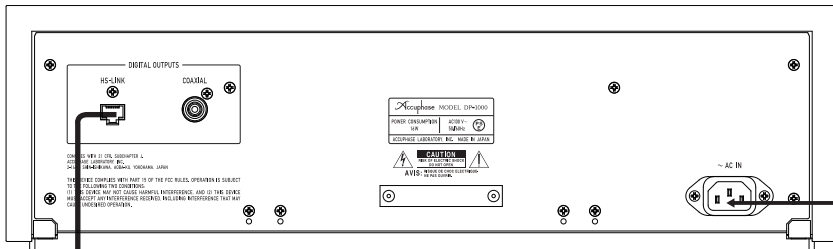
- 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。
- 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

6. 接続図

本機とDC-1000は、付属のHS-LINKケーブルで接続します。HS-LINKケーブルで接続すれば、SA-CDとCDの演奏が可能です。

本機



メモ 本機とDC-901等のVer.1対応機器(21ページ)を接続する場合には、本機のHS-LINK出力をVer.1に設定してください(18ページ)。

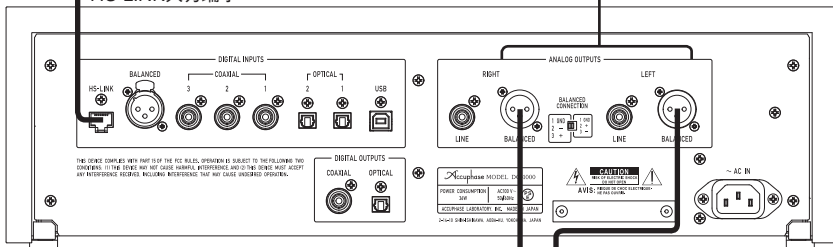
メモ 本機とDC-1000を同軸ケーブルで接続することも可能ですが、CDのみの伝送となります。

HS-LINK出力端子

HS-LINKケーブル(付属)

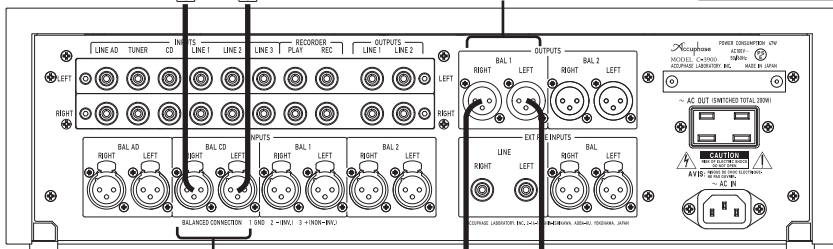
HS-LINK入力端子

バランス出力端子 DC-1000



バランスケーブル
または
ラインケーブル*1

バランス出力端子 プリアンプ

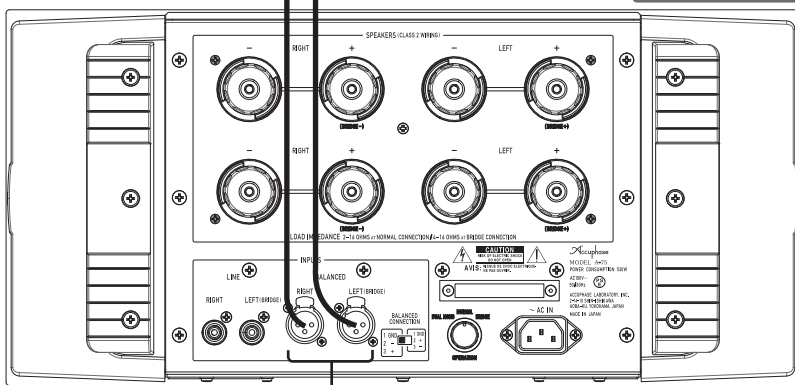


バランス入力端子

バランスケーブル
または
ラインケーブル*1

***1**
注意 バランスケーブルとラインケーブルを同時に接続しないでください。アースグループになってノイズを発生させる原因となります。

パワーアンプ



バランス入力端子

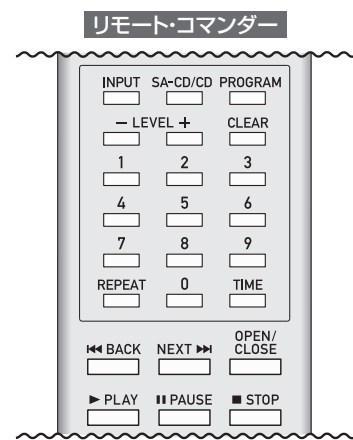
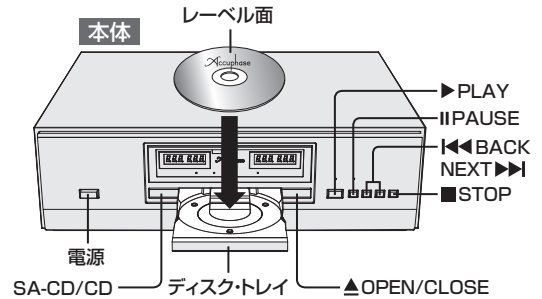
接続図

本機のご使用方法

7. 本機のご使用方法

7.1 基本的な演奏

- 1 電源スイッチを押し、電源を入れます。
- 2 **▲OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・トレイを開きます。
- 3 レーベル面を上にして、ディスクをディスク・トレイに置きます。
- 4 **▲OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・トレイを閉じます。
- 5 **▶PLAY** ボタンを押すと、第1曲目から演奏を開始します。
- 6 **■STOP** ボタンを押すか、最終トラックの演奏が終了すると、演奏を停止します。
- 7 **▲OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・トレイを開き、ディスクを取り出します。
- 8 再び**▲OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・トレイは必ず閉じておきます。



接
続
図

本
機
の
ご
使
用
方
法

7.2 基本的な機能

機能	操作方法
SA-CD/CDの切り替え	SA-CDとCDは SA-CD/CD ボタンで切り替えます。 詳しい操作方法については、 4 SA-CD/CD ボタンの動作説明をご覧ください(8ページ)。
演奏の一時停止	演奏中に PAUSE ボタンを押すと、演奏を一時停止します。
一時停止中からの演奏	一時停止中に ▶PLAY ボタンまたは PAUSE ボタンを押すと演奏を再開します。
演奏トラックの指定	演奏トラックは、 ◀◀BACK / NEXT▶▶ ボタンや 選曲 ボタンで指定します。 詳しい操作方法については、それぞれのボタンの動作説明をご覧ください(7 ◀◀BACK / NEXT▶▶ ボタン：9ページ、 11 選曲 ボタン：10ページ)。
FR早戻し/FF早送り	◀◀BACK / NEXT▶▶ ボタンを長押しすると、FR早戻し/FF早送りとなります。 詳しい操作方法については、 7 ◀◀BACK / NEXT▶▶ ボタンの動作説明をご覧ください(9ページ)。
表示の変更	リモート・コマンダーの TIME ボタンで表示を変更することが可能です。 詳しい操作方法については、 10 ディスプレイの動作説明をご覧ください(9ページ)。
リピート演奏	リモート・コマンダーの REPEAT ボタンで全曲と1曲のリピート演奏が可能です。 詳しい操作方法については、 12 REPEAT ボタンの動作説明をご覧ください(10ページ)。
プログラム演奏	リモート・コマンダーの PROGRAM ボタンと CLEAR ボタンでプログラム演奏が可能です。 詳しい操作方法については、『プログラム演奏』をご覧ください(14ページ)。

7.3 プログラム演奏

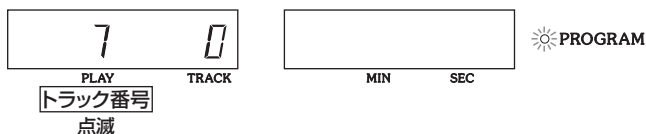
プログラム機能を使えば、最大20曲までお好みの順番で演奏をお楽しみいただけます。
プログラム演奏の操作は、全てリモート・コマンダーのキーで行います。

プログラム演奏を行うには

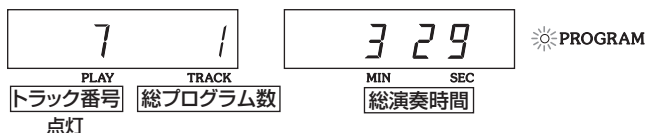
1 STOP状態中に**PROGRAM** ボタンを長押し(2秒以上)すると、**PROGRAM インジケーター** が点灯しプログラム演奏の操作が可能になります。

2 演奏したいトラックの**選曲** ボタンを押します。ディスプレイ上では、選択したトラック番号が点滅します。

選曲 ボタンを押す間違えたときは、**STOP** ボタンを押すことで再入力が可能です。



3 **PROGRAM** ボタンを押すと、点滅していたトラック番号が点灯に変わり記憶されます。ディスプレイ上には、トラック番号、総プログラム数、総演奏時間が表示されます。



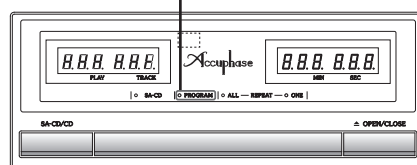
4 プログラム演奏に、さらにトラックを追加したい場合には、上記2項と3項を繰り返します。

5 **▶PLAY** ボタンを押すとプログラムした順番で演奏が始まります。

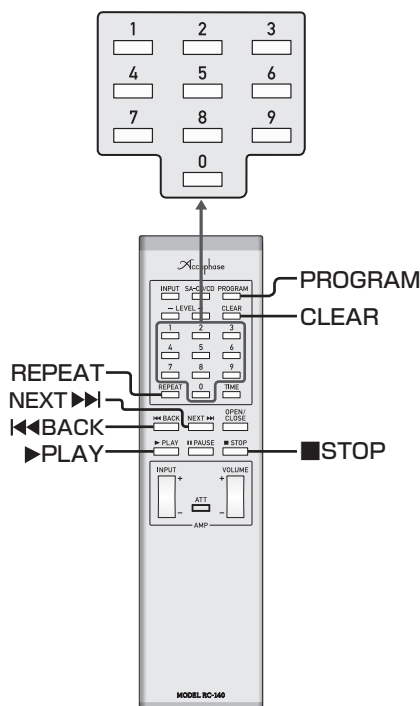
メモ

- プログラムした内容を変更したい場合は、**CLEAR** ボタンで最後の曲から順番に削除を行い、再び入力します。
- プログラム演奏中に**◀◀BACK** / **NEXT▶▶** ボタンを押すと、プログラムの内容に従ってトラックを移動します。
- プログラム演奏中に**選曲** ボタンは機能しません。
- プログラム演奏中も**REPEAT** ボタンで、プログラムした全曲のリピート演奏が可能です。1曲のリピート演奏はできません。
- ハイブリッド・ディスクによるSA-CDとCDが混在したプログラム演奏はできません。**PROGRAM インジケーター** が消灯している状態でSA-CDかCDを選択してください。
- データ・ディスクはプログラム演奏ができません。

PROGRAM インジケーター

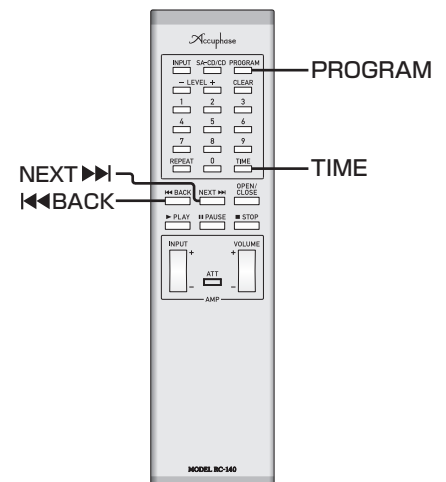
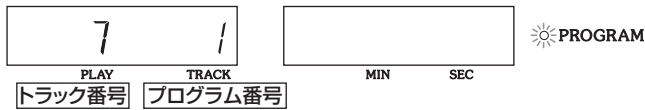


選曲ボタン



プログラムの内容を確認するには

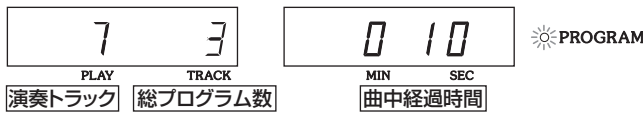
PROGRAM インジケータが点灯してSTOP状態であれば、
 ◀◀BACK / NEXT▶▶ ボタンを押すことで、プログラムの内容を確認できます。



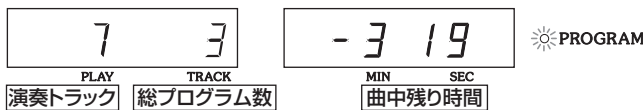
表示を切り替えるには

演奏中にTIMEボタンを押すと、以下のように表示を切り替えます。
 トータル経過時間及びトータル残り時間の表示はできません。

演奏中のトラックの経過時間



演奏中のトラックの残り時間



通常の演奏に戻すには

下記いずれかの方法で、通常の演奏に戻ります。プログラムの内容は全て削除されます。

- STOP状態中にPROGRAMボタンを長押し(2秒)してPROGRAM インジケータを消灯させる。
- ディスクトレイをOPENする。
- 本機の電源を切る。

注意

削除したプログラムの内容を再び呼び出すことはできません。プログラムの内容を再び入力する必要があります。

7.4 データ・ディスクの演奏

演奏できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	ビット数	演奏できるディスクの種類			拡張子
			CD-R CD-RW	DVD-R DVD-RW	DVD+R DVD+RW	
WAV	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz	16 / 24ビット	○*1	○	○	.wav
FLAC	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz	16 / 24ビット	○*1	○	○	.flac
DSD	2.8 / 5.6MHz	1ビット	—	○	○	.dff / .dsf

*1 この項目は、演奏できるファイルのサンプリング周波数が32/44.1/48kHzのみとなります。

- ご使用になるディスクや記録状態により、演奏できない場合があります。
- ファイナライズされていないディスクは演奏できません。

演奏可能な最大ファイル数とフォルダ数

最大フォルダ数：1,000個

1つのフォルダに含まれる最大ファイル数：2,000個

認識可能フォルダ階層数・8階層まで

- ファイルには必ず拡張子を付けてください。拡張子を付けないファイルは演奏できません。
- 個人が録音したものは、個人として楽しむ以外では著作権法上、権利者に無断で使用できません。

- 本機は、著作権保護のかかっていない音楽ファイルのみを演奏できます。
- インターネット上の有料音楽サイトからのダウンロードコンテンツには著作権保護がかかっています。
- 演奏可能な最大ファイル数とフォルダ数は、ファイルおよびフォルダ名の長さやフォルダの階層数などの条件により変わります。

ファイルの演奏順番について

音楽ファイルを記録しているフォルダが複数ある場合、本機がメディアを読み取るときに自動的に各フォルダの演奏順番を設定します。

DVD-R/-RW/+R/+RW、CD-R/-RW

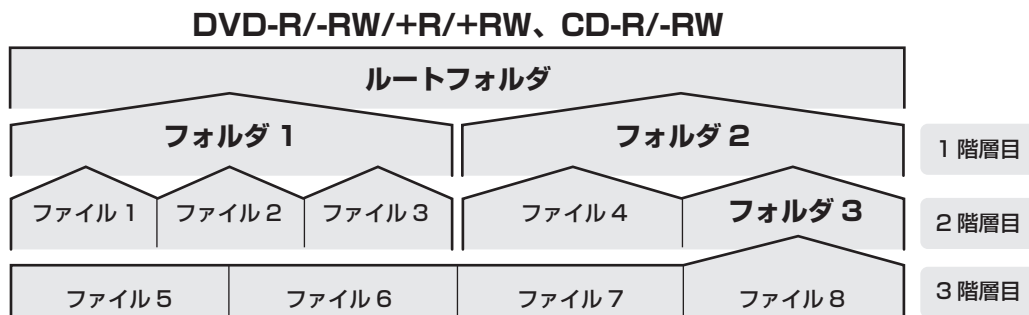
DVD-R/-RW/+R/+RW、CD-R/-RWに記録しているファイルは、第一階層の最初のフォルダにあるファイルを演奏したあとに、第一階層の別のフォルダ・・・の後に第二階層の最初のフォルダ・・・第三階層のフォルダ・・・の順番に演奏します。

メモ

- パソコン上で表示される順番と実際に演奏する順番が異なる場合があります。
- DVD-R/-RW/+R/+RWおよびCD-R/-RWのライティングソフトによっては、演奏する順番が変わる場合があります。

フォルダとファイルの構成

DVD-R/-RW/+R/+RW、CD-R/-RWに記録された音楽ファイルは、いくつかの大きな区切り(フォルダ)と小さな区切り(ファイル)に分けられています。ファイルはフォルダに、フォルダはいくつかの階層に分けて記録させることができます。本機は8階層まで認識できます。



メモ

- 音楽ファイルをCD-R/-RWに書き込む場合、ライティングソフトのフォーマットは「ISO9660」で行なってください。他のフォーマットで記録された場合、正しく演奏できないことがあります。詳しくは、ご使用のライティングソフトの説明書をご覧ください。

ファイルの演奏例

ファイル、フォルダはASCII順(アルファベット順)に並べかえられ、

ルートフォルダ ⇒ 第1階層フォルダ ⇒ 第2階層フォルダ ⇒ ……

と検索して行きます。

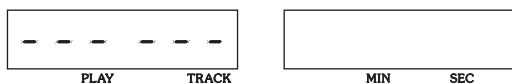
上の図の場合、ルートフォルダにファイルがないので、フォルダ1のファイル1が最初に演奏されます。

結果として

ファイル1 ⇒ ファイル2 ⇒ ファイル3 ⇒ ファイル4 …… ファイル8

の順になります。

- 本機で対応していないファイルを演奏しようとする時“- - - - -”と点滅表示され、自動的に次の曲へジャンプします。NEXTまたはBACKで対応していないファイルを指定した場合は、NEXT時は次の曲に、BACK時は前の曲にジャンプします。



演奏方法について

データ・ディスクの演奏はSA-CDやCDと同様に行えます。**REPEAT** ボタンで全曲と1曲のリピート演奏も可能です。ただし、以下の操作はできません。

- リモート・コマンダーの**選曲**ボタンおよびフォルダの選択
- SA-CD/CDの切り換え
- 曲中残り時間、トータル経過時間及びトータル残り時間の表示
- フォルダごとのリピート演奏
- NEXTやBACKの連打によるトラック・ジャンプ
- プログラム演奏

停止中は総曲数(演奏不可ファイルも含めた音楽ファイルの数)が表示されます。



DSDディスクについて

DSDディスク:「DSD_DISC」という名前のフォルダにDSFフォーマットのファイルを入れたディスクです。パソコンなどで作成したDVD-R/-RW/+R/+RWディスクが演奏可能です。

7.5 HS-LINKバージョンの変更方法

HS-LINK出力のバージョンを設定します。Ver.2に対応しない機器を接続する場合にVer.1に設定します。HS-LINKのバージョンについては21ページをご参照ください。本機とDC-1000を接続する場合には、変更の必要はありません。操作は停止中に行います。リモート・コマンダーでは操作できません。

操作手順		操作後の表示		*:工場出荷状態
①	■STOPを“2秒以上”長押しする	HS-L		通常の動作から設定モードへ入ります。
②	▶PLAYを短く押す	HS-L 2 または HS-L 1		現在の設定(1または2*)が表示されます。
③	◀◀BACKまたはNEXT▶▶を短く押す	HS-L 1 ↑↓ HS-L 2		変更後の設定(1または2*)を表示させます。
④	▶PLAYを短く押すと設定を実行します ■STOPを短く押すと設定をキャンセルします	HS-L		設定が実行またはキャンセルされます。
⑤	NEXT▶▶を4回短く押す	End		HS-L → PonP → AutP → Ini → Endの順番で表示が変わります。
⑥	▶PLAYを短く押す	0 0 表示例		設定モードを抜けて通常の動作に戻ります。

*操作を最初からやり直したい時には、電源を入れ直します。

7.6 パワー・オン・プレイの設定方法

パワー・オン・プレイをONに設定すると、電源が入ると同時に演奏を開始します。市販のタイマーと組み合わせることで、好みの時間に演奏を開始することができます。操作は停止中に行います。リモート・コマンダーでは操作できません。

操作手順		操作後の表示		*:工場出荷状態
①	■STOPを“2秒以上”長押しする	HS-L		通常の動作から設定モードへ入ります。
②	NEXT▶▶を短く押す	PonP		HS-L → PonPの順番で表示が変わります。
③	▶PLAYを短く押す	PonP OFF または PonP On		現在の設定(OFF*またはOn)が表示されます。
④	◀◀BACKまたはNEXT▶▶を短く押す	PonP On ↑↓ PonP OFF		変更後の設定(OFF*またはOn)を表示させます。
⑤	▶PLAYを短く押すと設定を実行します ■STOPを短く押すと設定をキャンセルします	PonP		設定が実行またはキャンセルされます。
⑥	NEXT▶▶を3回短く押す	End		PonP→AutP→Ini→Endの順番で表示が変わります。
⑦	▶PLAYを短く押す	0 0 表示例		設定モードを抜けて通常の動作に戻ります。

*操作を最初からやり直したい時には、電源を入れ直します。

7.7 オート・ポーズの設定方法

演奏開始時、接続機器がロックインするタイミングより早く本機が演奏を始めてしまうと、曲の先頭部分が演奏されない現象が起こります。オート・ポーズは本機が演奏を開始するタイミングを遅らせることで、この現象を防ぐ機能です。遅延時間は最大5秒まで設定可能です。本機とDC-1000を接続する場合には、設定の必要はありません。操作は停止中に行います。リモート・コマンダーでは操作できません。

操作手順		操作後の表示		*:工場出荷状態
①	■STOPを“2秒以上”長押しする	HS-L		通常の動作から設定モードへ入ります。
②	NEXT▶▶を2回短く押す	AutP		HS-L → PonP → AutP の順番で表示が変わります。
③	▶PLAYを短く押す	AutP	OFF	現在の設定(OFF*または遅延時間の秒数を表す1~5)が表示されます。
		AutP	1	
		AutP	2	
		AutP	3	
		AutP	4	
		AutP	5	
④	◀◀BACKまたは NEXT▶▶を短く押す	AutP	OFF	変更後の設定(OFF*または遅延時間の秒数を表す1~5)を表示させます。
		AutP	1	
		AutP	2	
		AutP	3	
		AutP	4	
		AutP	5	
⑤	▶PLAYを短く押すと設定を実行します ■STOPを短く押すと設定をキャンセルします	AutP		設定が実行またはキャンセルされます。
⑥	NEXT▶▶を2回短く押す	End		AutP → Ini → End の順番で表示が変わります。
⑦	▶PLAYを短く押す	0 0 表示例		設定モードを抜けて通常の動作に戻ります。

*操作を最初からやり直したい時には、電源を入れ直します。

7.8 7.5項~7.7項の設定を工場出荷状態に戻す方法

7.5項~7.7項の設定を工場出荷状態に戻します。操作は停止中に行います。リモート・コマンダーでは操作できません。

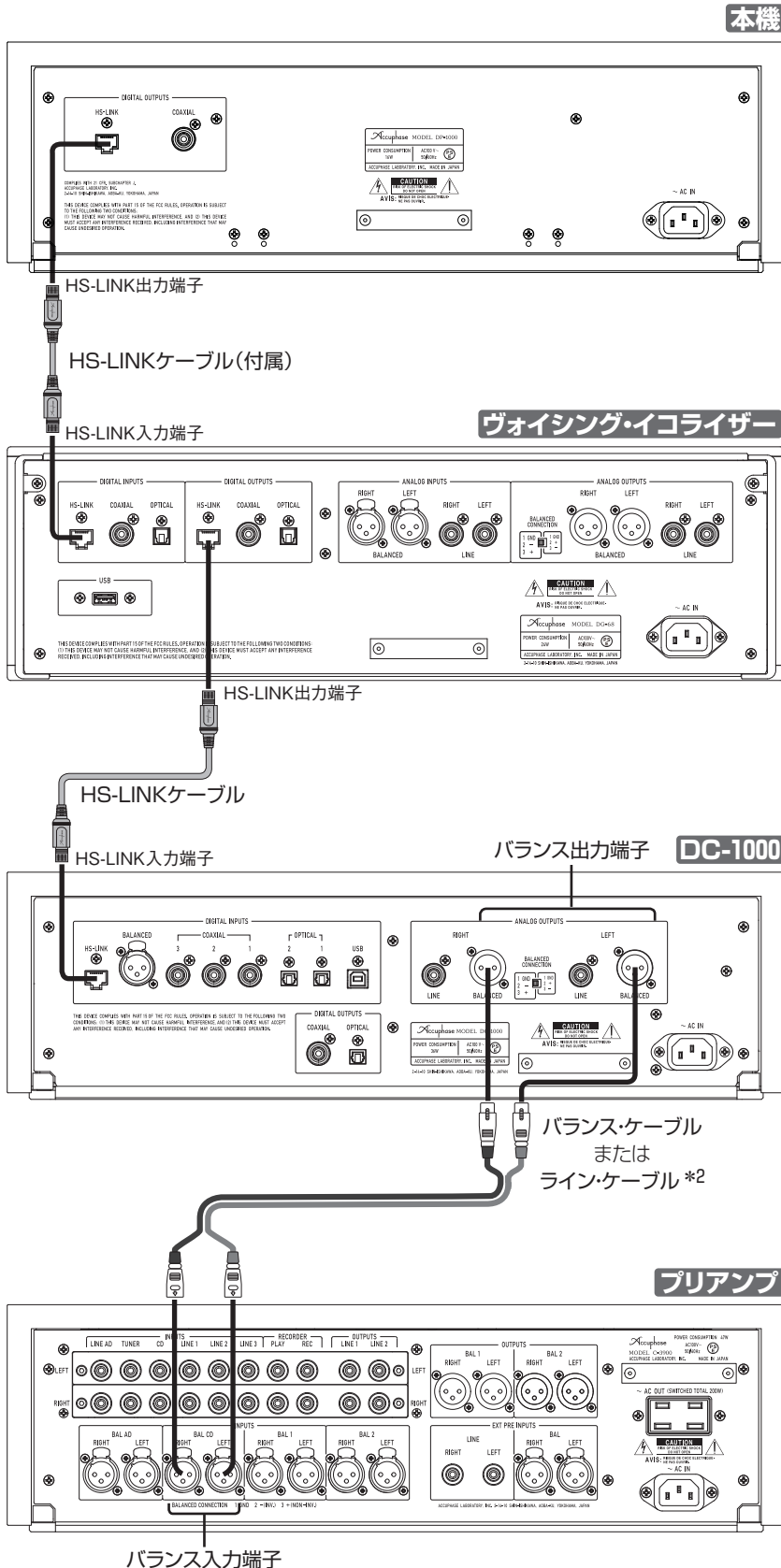
操作手順		操作後の表示		*:工場出荷状態
①	■STOPを“2秒以上”長押しする	HS-L		通常の動作から設定モードへ入ります。
②	NEXT▶▶を3回短く押す	Ini		HS-L → PonP → AutP → Ini の順番で表示が変わります。
③	▶PLAYを短く押すと工場出荷状態に戻ります ▶PLAYを押さずに④へ進むと工場出荷状態には戻りません	Ini	Fin	工場出荷状態への設定が終了すると、2秒間Finと表示されます。
④	NEXT▶▶を短く押す	End		Ini → End の順番で表示が変わります。
⑤	▶PLAYを短く押す	0 0 表示例		設定モードを抜けて通常の動作に戻ります。

*操作を最初からやり直したい時には、電源を入れ直します。

注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

8. ヴォイスング・イコライザーとの接続

ヴォイスング・イコライザーはプリアンプとパワーアンプの間にアナログ信号で接続する方法を推奨させていただいておりますが、ヴォイスング・イコライザー (DG-28を除く*1) をデジタル信号で接続する場合には、本機とDC-1000の間にHS-LINKケーブルで接続します。



メモ 本機とDG-58、DG-48、DG-38を接続する場合には、本機のHS-LINK出力をVer.1に設定してください(18ページ)。

***1** **メモ** 本機とDG-28を接続する場合には、同軸ケーブルで接続します。この場合CDのみの伝送となります。

メモ ヴォイスング・イコライザーの入力端子に他の機器を接続して、ヴォイスング・イコライザーで音源を切り替えることも可能です。

メモ DG-68等のVer.2対応機器からDC-901等のVer.1対応機器へ接続する場合には、Ver.2対応機器のHS-LINK出力をVer.1に設定してください(その機種取扱説明書参照)。

***1** **メモ** DG-28とDC-1000を接続する場合には、同軸ケーブルまたは光ファイバーケーブルで接続します。

***2** **注意** バランスケーブルとラインケーブルを同時に接続しないでください。アースがグループになってノイズを発生させる原因となります。

ヴォイスング・イコライザーとの接続
HS-LINKについて

9. HS-LINK について

HS-LINKは弊社製品を広帯域デジタル信号で接続する、弊社独自のデジタル信号伝送規格です。

HS-LINKにはオリジナルのVer.1と、サンプリング周波数とビット数を拡張したVer.2の2つの規格があります。どちらの規格もHS-LINKケーブルを使用します。

HS-LINK	フォーマット	サンプリング周波数	ビット数	接続ケーブル
Ver.1	DSD	2.8MHz	1	HS-LINK ケーブル
	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz	16~24	
Ver.2	DSD	2.8 / 5.6MHz	1	
	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384kHz	16~32	

HS-LINKはアキュフェーズ株式会社の登録商標です。

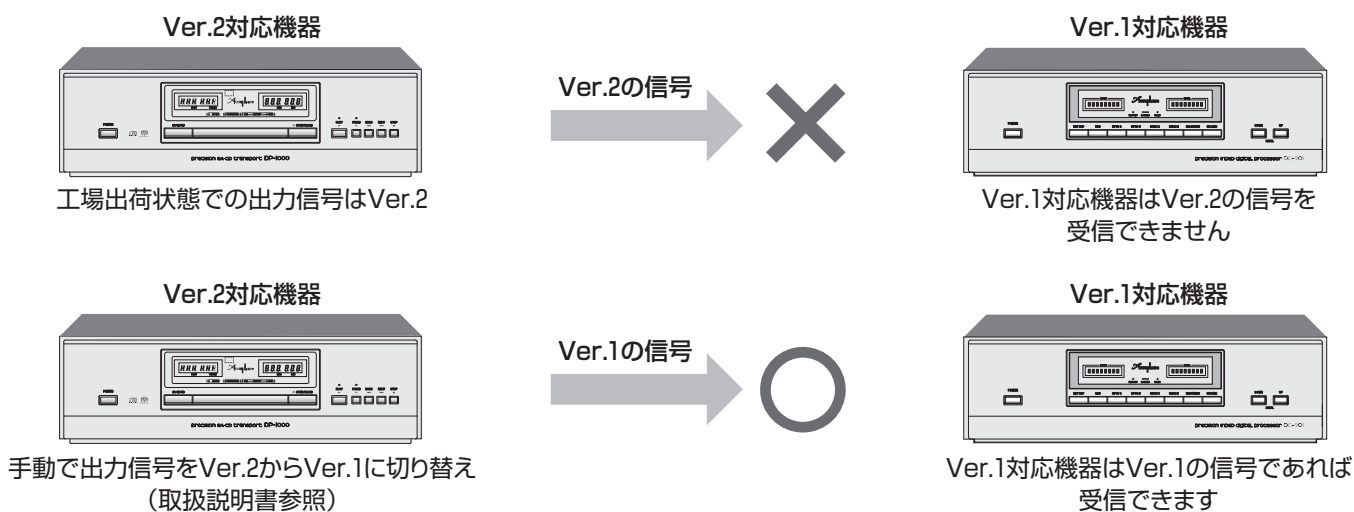
『Ver.1対応機器』と『Ver.2対応機器』

HS-LINKを搭載した機器は、Ver.1のみに対応する『Ver.1対応機器』と、Ver.1/Ver.2の両方に対応する『Ver.2対応機器』に分類されます(下表)。

分類	機種
Ver.1 対応機器 (Ver.1 のみに対応)	DP-900 / DC-901 / DP-800 / DC-801 / DP-100 / DC-101 / DP-720 / DP-700 / DP-600 / DP-550 / DF-55 / DF-45 / DG-58 / DG-48 / DG-38 オプション・ボード挿入時：DP-85 / DP-78 / DP-77 / DF-35 / DC-330 / DC-300
Ver.2 対応機器 (Ver.1/Ver.2 に対応)	DP-1000 / DC-1000 / DP-950 / DC-950 / DP-750 / DP-570 / DP-560 / DC-37 / DF-65 / DG-68(2023年3月現在)

注意：『Ver.2対応機器』から『Ver.1対応機器』への接続方法

『Ver.2対応機器』から『Ver.1対応機器』へ接続する場合には、『Ver.2対応機器』の出力信号設定を手動でVer.2からVer.1に切り替える必要があります。切替方法については18ページをご参照ください。



ワイヤレス接続

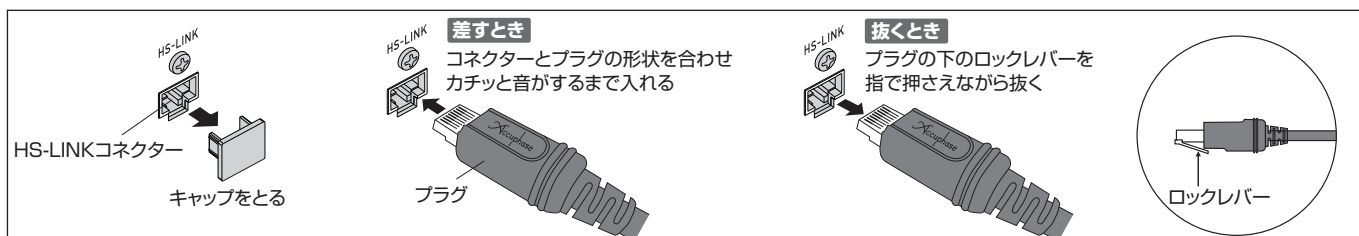
HS-LINK

メモ 『Ver.1対応機器』から『Ver.2対応機器』へ接続する場合には、切り替えの必要はありません。そのままお使いいただけます。

HS-LINKケーブル



AHDL-15(付属)	1.5m
AHDL-30(特注品)	3.0m



10. 保証特性

適合ディスク

2チャンネルSuper Audio CD
CD

データ・ディスク CD-R/-RW、DVD-R/-RW/+R/+RW
(対応フォーマット：WAV、FLAC、DSF、DSDIFF)

読み取り方式

非接触光学式

レーザー・ダイオード発光波長

SA-CD用：655nm

CD用：790nm

レーザークラス

クラス1レーザー機器(IEC 60825-1)

デジタル出力

HS-LINK コネクタ形状：RJ-45
適合ケーブル：HS-LINK専用ケーブル
SA-CD：2.8MHz/1bit DSD
CD：44.1kHz/16bit PCM
データ・ディスク：2.8, 5.6MHz/1bit DSD
：32~192kHz/16~24bit PCM

COAXIAL フォーマット：IEC 60958準拠
CD：44.1kHz/16bit PCM
データ・ディスク：32~192kHz/16~24bit PCM

電源

AC100V 50/60Hz

消費電力

16W

最大外形寸法

幅477mm × 高さ156mm × 奥行394mm

質量

29.8kg

付属リモート・コマンダー RC-140

方式：赤外線パルス方式

電源：単3形乾電池2個使用

最大外形寸法：50mm×192.5mm×20.5mm

質量：212g(電池含む)

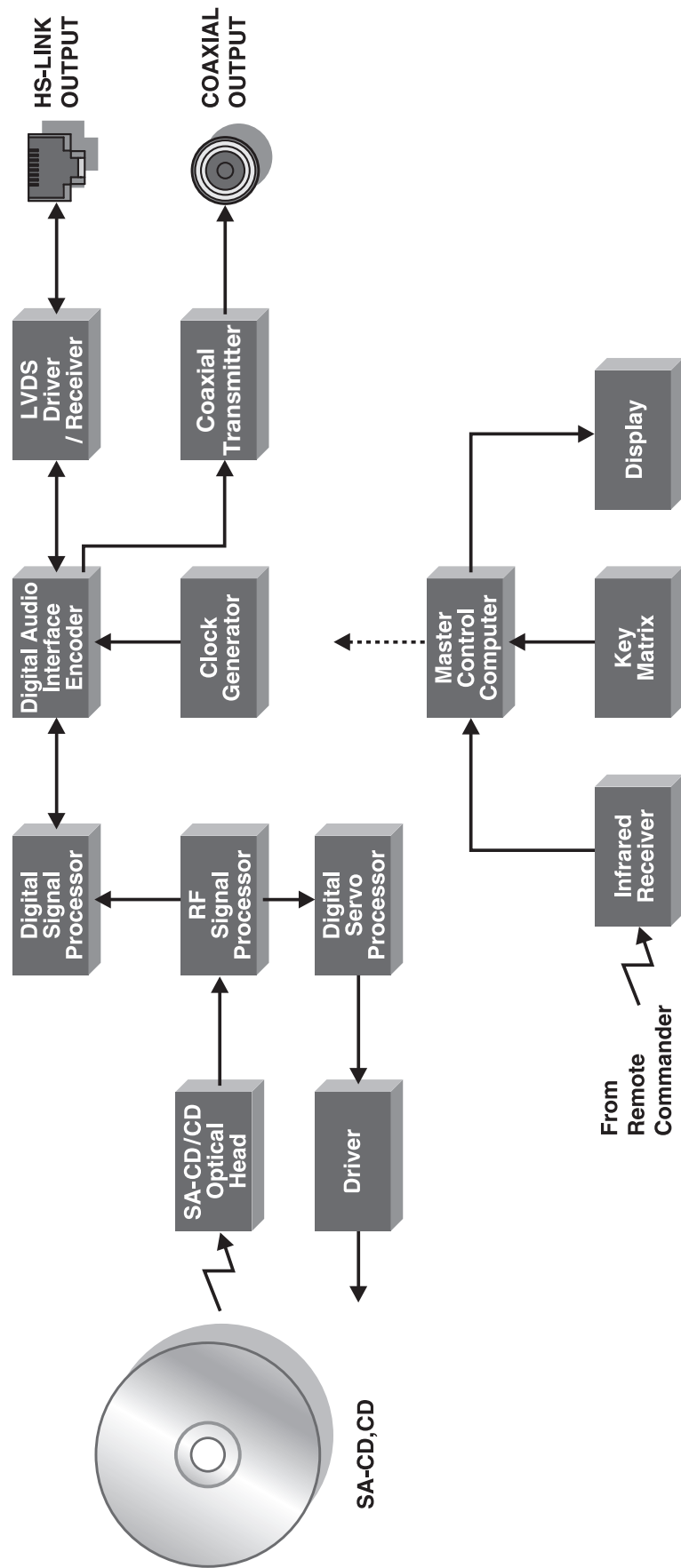
●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。
JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本産業規格「電磁両立性-第3-2部：限度値-高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

*本機の仕様・特性および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

11. ブロック・ダイアグラム



保証特性
ブロック・
ダイアグラム

12. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。

これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。



注意：接続を変えるときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

現象	原因等	対処方法
電源が入らない。	電源コードが抜けている。	本体側とコンセント側の挿入箇所を確認します。
	電源コードが傷んでいる。	危険ですので傷んでいる電源コードは使用せず、当社製品取扱店または当社品質保証部へご連絡ください。
デジタル出力で接続した機器がロックしない。	接続した機器がHS-LINK Ver.2に対応していない。	本機のHS-LINK出力をVer.1に設定してください(18ページ参照)。
	接続した機器の入力選択が異なる。	接続した機器の入力をお確かめください。
	同軸ケーブルで接続し、SA-CDを演奏している。	HS-LINKで接続してください。同軸ケーブルではSA-CDの信号を出力できません。
演奏が始まらない。	ディスクのセンターホールにバリが残っている。	バリを取り除いてください(3ページ参照)。
	ピックアップレンズが結露している。	電源を入れてディスクを取り出し、1時間ほど経過すると結露は自然になくなります。
	本機では演奏できないディスクを装着している。	本機で演奏できるディスクをご確認ください(4ページ参照)。
音が途切れる。雑音が出る。演奏途中でディスクが止まる。	ディスクに反りや汚れや傷がある。	ディスクをご確認ください。
両方または片方のスピーカーから音が出ない。	接続が正しくされていない。	全ての機器が正しく接続されているか確認します。
	信号が出力されていない。	全ての機器が信号を出力する状態であるか確認します。
片方のスピーカーから音が出ない。	上記"両方または片方のスピーカーから音が出ない。"の原因に該当しない場合。	下記"片方のスピーカーから音が出ない場合に原因を探す方法"をお試しください。
定位感がはっきりしない。	片方のチャンネルだけ位相が逆になっている。	スピーカーケーブルの極性 (+ / -) が正しいか確認します。
リモート・コマンダーで操作できない。	電池が入っていない。	電池を入れる。
	電池の極性が異なる。	電池ケースの⊕⊖を確認し、電池を正しく挿入する。
	電池が切れている。	新しい電池と交換する。
	受光部付近に障害物がある。	受光部付近に障害物を置かない。
電源スイッチを入れると自動的に演奏が始まる。	テレビやインバーター照明等の影響で、受信できない。	テレビやインバーター照明等から離す。
	電源が入ると同時に演奏を開始するパワー・オン・プレイがONに設定されている。	パワー・オン・プレイをOFFにする(18ページ参照)。
曲の始まりが演奏されない。	演奏開始時に接続機器の準備が間に合わない。	オート・ポーズを設定してください(19ページ)。

片方のスピーカーから音が出ない場合に原因を探す方法

注意：接続を切り替える時は、必ず各機器の電源を切る

手順	方法	結果	原因
1	左右のスピーカーケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ●パワーアンプ(またはプリメイン・アンプ)の左チャンネル → スピーカーの右チャンネル ●パワーアンプ(またはプリメイン・アンプ)の右チャンネル → スピーカーの左チャンネル	同じチャンネルのスピーカーから音がでない。	スピーカーケーブルの接続やスピーカーに問題があると考えられます。
		反対チャンネルのスピーカーから音がでない。	プレーヤーまたはリアンプまたはパワーアンプ(またはプリメイン・アンプ)に問題があると考えられます。さらにセパレート・アンプの場合には手順2を、プリメイン・アンプの場合は手順3を行います。
2	ケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ●リアンプの左チャンネル → パワーアンプの右チャンネル ●リアンプの右チャンネル → パワーアンプの左チャンネル	同じチャンネルのスピーカーから音がでない。	パワーアンプに問題があると考えられます。
		反対チャンネルのスピーカーから音がでない。	プレーヤーまたはリアンプに問題があると考えられます。さらに手順3を行います。
3	ケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ●DC-1000の左チャンネル → プリアンプ(またはプリメイン・アンプ)の右チャンネル ●DC-1000の右チャンネル → プリアンプ(またはプリメイン・アンプ)の左チャンネル	同じチャンネルのスピーカーから音がでない。	リアンプ(またはプリメイン・アンプ)に問題があると考えられます。
		反対チャンネルのスピーカーから音がでない。	DC-1000に問題があると考えられます。

13. アフターサービスについて

保証書について

- 保証書は本体付属の『お客様カード(保証書発行はがき)』の登録でお送りいたしますので、「お客様カード」を**当社品質保証部に必ずご返送ください。**
- 『お客様カード』の『お客様情報欄』には付属の『目隠しシール』を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、**本機の保証期間はご購入日から5年間です。**
- 『品質保証書』の無い場合は、**全て有償修理となります**ので、『お客様カード』は必ずご返送ください。
- 『お客様カード』をご返送いただく時、ご購入日等を記入して頂きますが、下記の場合には『品質保証書』の発行ができないことがあります。
 - *ご購入頂いた購入日と弊社からの製品出荷日とが大きく異なる場合。
 - *『お客様カード』が返送されないまま、転売(インターネット等)された場合。
 - *長期間『お客様カード』の返送がない場合。
- オプション類には『お客様カード』を付属していませんが、製品出荷日をご購入日として弊社が登録し、『5年間保証』とさせていただきます。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



注意

保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

その他

- 本機は絶対に分解や改造をしないでください。修理ができない場合があります。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。**
The Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX 045(901)8995

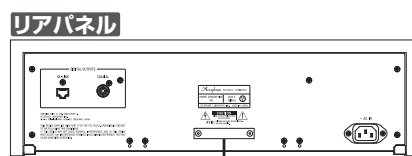
- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理のお問い合わせが可能です。
<https://www.accuphase.co.jp/>

修理を依頼する場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご住所、氏名、電話番号
- ご購入日、ご購入店
- 故障状況：できるだけ詳しく



シリアル番号

* 梱包材は、輸送時に必要となりますので、可能であれば保管しておいてください。

enrich life through technology



ACCUPHASE LABORATORY, INC.
アキュフェーズ株式会社
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL.045-901-2771(代) FAX.045-901-8959
<https://www.accuphase.co.jp/>